

# 当院の透析患者における頭蓋内出血の検討

沼田暁彦<sup>1)2)</sup> 山崎聰<sup>1)</sup> 草野英二<sup>2)</sup>

福島県立南会津病院 内科門脳神経科  
福島県立南会津病院 内科門脳神経科  
自治医科大学 内科

## 目的

- △にて数年当院で施設において立つ頭蓋内出血をきたした患者背景について検討

## はじめに

- ◆当施設の維持透析患者
- △総数42名中、10名死亡
- △頭蓋内出血5例、3例死亡

※平成20年1月～平成21年10月  
福島県立南会津病院において

## 方法

1. 頭蓋不全の原疾患
2. 年齢、性別、透析期間
3. 血圧
4. 抗凝固薬の内服状況
5. EEA製剤の種類と用量
6. Hb値、フェリチシン、TSA-Tを検討した。



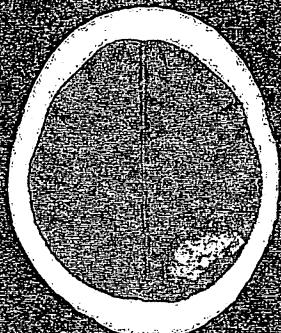
## 症例5 74歳男性 【透析歴】26か月

〔原疾患〕 糖尿病

〔合併症〕 多発脳梗塞、

十二指腸潰瘍

〔経過〕 前回透析帰宅後より右麻痺症状あり、次の透析時に頭部CTにて左後頭葉皮質下出血にて高次医療機関転送し、保存的に加療。当院転院を経て第20病日自宅退院。



## 結果2

症例	透析回数		透析時間		GFR ml/min	Hb g/dl	透析回数		透析時間
	透析期	拡張期	透析期	拡張期			透析回数	透析時間	
症例1	193	123	171	101	54.3	HD	ハイアルギリントン(100)1T1× セロクラール(20)3T3×	ヘパリン 600U/H	
症例2	165	77	212	92	49.9	HD		なし	低分子ヘパリン 800U/H
症例3	173	108	155	68	52	HDF	エバゲーリル(200)3T3×		低分子ヘパリン 600U/H
症例4	200	99	197	79	55.3	HD	ソブレーラル(200)2T2× セロクラール(20)3T3×	ヘパリン 600U/H	
症例5	141	64	138	64	56.9	HD	セロクラール(20)3T3×	ヘパリン 600U/H	
平均	174.6	80.8	181.4	87.0	53.7				
(SD)	(30.2)	(15.7)	(20.2)	(10.5)	(2.7)				

2009/12/10

## 結果3

症例	透析回数		透析時間		透析回数		透析時間		透析回数	
	透析期	拡張期	透析期	拡張期	透析回数	透析時間	透析回数	透析時間	透析回数	透析時間
症例1	74	男性	糖尿病	80	死	右側床脳室穿破	最終透析後2日			
症例2	72	男性	糖尿病	27	死	右側床脳室穿破	最終透析後2日			
症例3	84	男性	右脳梗塞	8	死	左後頭葉皮質下出血 (左内頸動脈瘤)	最終透析後2日			
症例4	73	男性	糖尿病	19	生	右側床脳室穿破	最終透析後2日			
症例5	74	男性	糖尿病	26	生	左後頭葉皮質下出血	最終透析後2日			
平均	75.4			32.0						
(SD)	(4.9)			(27)						

## 結果3

症例	透析回数		透析時間		透析回数		透析時間		透析回数	
	透析期	拡張期	透析期	拡張期	透析回数	透析時間	透析回数	透析時間	透析回数	透析時間
症例1	DA 40μg×1	9000	9.4	9.6	9.7	10.1	なし	127	23	
症例2	EPO 1500IU×3	4500	9.3	8.9	9.1	9.1	なし	247	68	
症例3	EPO 750IU×1	750	10.7	10.8	10.8	10.8	なし	260	24	
症例4	DA 60μg×1	2000	10.0	10.4	10.6	9.5	なし	155	42	
症例5	DA 40μg×1	9000	10.8	11.5	10.9	10.9	なし	103	25	
平均		7050	10.0	10.2	10.0	10.1	なし	178.4	36.4	
(SD)		(4424)	(1.7)	(1.0)	(0.79)	(0.79)		(1.1)	(18.2)	

2009/12/10

## 結果4

	年齢 (歳)	DM (%)	男性 (%)	収縮期 血圧	拡張期 血圧	透析 期間(月)	CTR (%)	
頭蓋内 出血	n=5	75.4 (41.9)	80 (100)	174 (30)	80 (16)	32 (27)	53.7 (2.7)	
非頭蓋 内出血	n=29	61.2 (13.2)	45 (59)	150 (19)	78 (14)	69 (76)	46.9 (5.4)	
P值		0.012	0.14	0.07	0.00986	0.337	0.146	0.00497

## 結果のまとめ

頭蓋内出血群では非頭蓋内出血群と比較して、年齢、収縮期血圧、CTR、フェリチン、ESA使用量が有意に高値であった。

## 結果5

	年齢 (歳)	フェリチン (ng/dl)	ESA (U/ml)	ESA 使用量 (U/ml)	透析 期間 (ヶ月)	
頭蓋内 出血	n=5	10.0 (0.7)	178.4 (71.1)	96.4 (19.2)	7050 (4424)	0 (0)
非頭蓋 内出血	n=29	10.3 (0.9)	110.8 (62.6)	27.9 (12.0)	3931 (3694)	6.9 (15.4)
P値		0.251	0.0179	0.0958	0.0496	0.185

## 考察

- ◆ いずれも血圧管理不良、かつCTR高値であった
- ◆ ドライウェイト設定が甘かった可能性
- ◆ 血圧変動が大きく十分な除水ができない症例が多くた

△ フェリチン高値、  
　　内出血傾向で、エリスロポエト  
　　チニン低反応性を認め  
　　頭蓋シスロボク管脆弱と関連している可能性

結語

エリスロポエトチニン低反応性の  
　　脳出血が可能であり、管理う。